

令和7年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	「思考・判断・表現」については、全学年が、目標値を上回った。3年生は、「知識・技能」も目標値を上回った。漢字の読み書き、文法・語句に関する事項、自分の考えが伝わるように文章を書く力を付けていくことが必要である。
社会	「知識・技能」の定着に課題があることを踏まえて、定期的に復習の時間を設けるなど工夫していく。
数学	正答率は分野によって変動が見られるなか、思考・判断・表現を求める問題の正答率が他の観点より低い状況である。「主体的・対話的で深い学び」や「数学的な見方・考え方を働かせる授業づくり」の視点に立ち、生徒が課題を自らの問題として捉えられる指導の工夫が求められる。
理科	全体的に基礎的な内容での失点が多く見受けられる。どの分野も目標値に対して、大きくマイナスとなっており、特定の単元のみということではない。今までの理科の学習に問題がある。定期考査の結果を考えると、定期的に復習の時間を設ける必要があると考えられる。
英語	全体的に目標値と全国正答率を上回っているが、リスニングや長文問題で、与えられた情報を理解し、それを元に要約する力や自分の考えをまとめる力をつける必要がある。

本校の教育目標
自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒
北区教育ビジョン2024の趣旨及び北区教育委員会の教育目標の実現を目指し、人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康にして、国際的視野に立って 社会に貢献し、自立した人を育成する。

本校が生徒に育成したい力
・自分から 学習に取り組もうとする力 ・自分の力 で考え判断して課題を解決しようとする力 ・自分のこととして 学んだことを活用・表現しようとする力

学力向上にかかわる経営方針
「学習指導の質的充実」 1. 生徒が主体となり、自主的に取り組めるように工夫された深い学び 2. 自己肯定感が高まる学び

校内における学力向上推進体制
運営委員会を毎週一回開き、全体での研究の進捗や学年の様子を報告し推進する。また、校内研究テーマ「生徒の自己肯定感を高めるための、指導の工夫を通じた学習意欲の向上」に沿って企画および授業方法の改善を行っていく。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
ノート、プリント、副教材等を効率的に活用し、外部の専門家を招くなど興味・関心を持ちやすい指導法の工夫を図る。小テストや繰り返し学習により基礎学力の定着を図る。	少人数学級の編成やチームティーチングを実施し、生徒の能力に応じた個別指導の充実を図る。特別支援体制を充実し、個に応じた指導を行う。	全校で、授業規律の確認を行い、生徒自らが授業に集中できる環境を作る。学校全体で基礎学力の定着に取り組み、ICTの活用等を含め、教師が授業改善を工夫し、分かる授業の研究を進め、研修を行う。	全教科において年間指導計画を作成し、評価・評定の観点を明確にし、生徒一人一人の努力が分かるようにする。また、学校行事や公開授業を通して、アンケート調査を行い評価・評定に生かす。	長期休業前に、三者面談を実施することで家庭との連携を図る。学校行事や公開授業、学年だより・学校だより等を通して、地域との連携を図る。